

教育機関等への義肢装具啓発プログラム 令和6年度 江東区立 深川第四中学校 開催報告

開催日 2024年11月20日(水)

2024年11月20日(水)に江東区立 深川第四中学校にて、中学2年生181名を対象に開催いたしました。深川第4中学校では2021年にも開催されており、3年ぶり2回目の開催となりました。

当日は、2限目に義肢装具士による「障がいの理解と義肢装具士の仕事」、義足ユーザーによる日常動作パフォーマンスを、また3限目には「採型デモンストレーション」、「体験義足」、「義肢装具展示品閲覧」の3つのブースに分かれて、15分毎に各ブースを回って体験を行いました。4限目は義足ユーザーによる講義と立位テニスのパフォーマンスを行いました。

今回は、講師に国立障害者リハビリテーションセンター義肢装具士の星野 元訓氏を、義足ユーザーに日本障がい者立位テニス選手の岸 俊介氏をお招きし、(公社)日本義肢装具士協会 障がい者、パラアスリート及び義肢装具士の啓発に関するWG(東日本支部)からは運営スタッフ3名が対応しました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

なお、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、中学校では特に予防対策の実施指定は無かったが、当協会としてスタッフの「検温」・「手指の消毒」・「マスクの装着」の実施下で開催しました。

2限目:義肢装具士による講義&義足ユーザーによる日常動作パフォーマンス

講義

～障がいの理解と義肢装具士の仕事～

義肢装具士の星野氏による講義「障がいの理解と義肢装具士の仕事」を行いました。

障がいについての概要、義肢装具の説明や義肢装具士の仕事に関して多くの写真や動画を用いて細かく説明していただき、怪我や病気と障がいとの違い、義肢装具士が具体的にどのように働いているのかなど、生徒に理解していただけたと思います。



障がいの理解と義肢装具士の仕事についての講義

義足ユーザーによる日常動作の パフォーマンス

今回も、大腿義足ユーザーの岸 俊介氏にデモンストレーターとして、星野 元訓氏に司会進行をお願いし、司会の指示で日常動作のパフォーマンスをステージ上で行いました。内容は、断端を見せない状況での義足装着、椅座位での靴の脱着、自然歩行から小走りまで、階段昇降、その他諸々の動作を行ってもらいました。岸氏も非常に慣れた様子で動作を行っており、質の高いパフォーマンスを見せていただきました。



義足ユーザー日常動作パフォーマンス

3限目:代表生徒体験&義肢装具展示品閲覧

足の採型デモンストレーション



足の採型の様子

合計3名の生徒に対し、壇上にて安部WG委員長が下肢の採型を行いました。

ステージ上で採型を行ったため、手元をビデオカメラでスクリーンに映し出し、マイクで解説を入れてフロアにいる生徒達が理解しやすくなる工夫をしました。

モデルの生徒達は、徐々に石膏が固まってくるのが不思議な様子で、興味津々でした。終了後には記念に陰性モデルをプレゼントしました。

体験義足



体験義足の様子

合計3名の生徒を選出してもらい、体育館の中央で保谷担当理事が行いました。生徒にケガを負わせないように、体験する生徒の両脇に学校の先生が必ず付いていただきました。

また、その際に岸氏に義足操作や走行のパフォーマンス、生徒へのアドバイスもしていただき、単に模擬義足体験をするより理解を深められたのではないかと思います。

当初3名の生徒が体験予定でしたが、今回スムーズに体験が進行できたため、合計9名の生徒が体験することが出来ました。

義肢装具展示



義肢装具展示の様子

体育館後方スペースに3つのテーブルを用意し、義肢装具を展示しました。最初に星野氏から展示品の概要や注意事項の説明が行われ、その後3グループに分かれ、それぞれのテーブルで展示品に触れていただき、生徒からの質問にも随時答えました。

硬性コルセットを実際に装着した生徒は、固定力に感心したり、写真撮影をするなど楽しそうに見学していました。

大腿義足は膝が曲がる事で指を挟みやすいため、スタッフも気を付けていましたが、特に怪我をすることもなく無事に終了しました。

4限目:義肢ユーザーによる講義 & 立位テニスのパフォーマンス

義足ユーザーによる講演 & デモンストレーション

今回も義肢ユーザーであり、立位テニス競技者でパラリンピック出場経験のある岸 俊介氏に、講師とテニスのパフォーマンスを依頼しました。講義では、岸氏の生い立ちや切断原因、障がい者の心境、逆境への立ち向かい方、障がい者立位テニスなどについて説明していただきました。中でも、Diversity(多様性)、Equity(公平／公正性)、Inclusion(包摂性)という社会のあり方についての言葉も中学生に伝えておられ、とても有意義な講義であったと思いました。立位テニスパフォーマンスでは、軟式テニス部キャプテンの生徒とラリーを行っていただき、大腿義足を装着しながらの動きのコツを説明しながら、上手にラリーが続きました。生徒たちからの歓声もあり、とても楽しい雰囲気の中で終わることが出来ました。



立位テニスのパフォーマンスの様子

イベントを終えて. . .

新型コロナウイルス5類移行今回のに伴い、対面・体験型のイベントを開催することができました。以前オンラインイベント開催の経験もありますが、対面・体験型で義肢装具や義肢ユーザーの動作など、実際に生徒に見て触ってもらう方がより伝わることを今回のイベントで改めて実感しました。今後日常生活の中で、障がいがある方や義肢装具を使用する方々を見かける、または接する機会があると思いますが、今回の授業から学んだことが何かしらの役に立つを思います。後日、生徒たちひとりひとりからお礼の手紙が届き、イベントがとても有意義であり開催して良かったと思いました。

最後に、体験型のイベントでは、怪我などアクシデントの可能性もありますが、無事に終わることが出来たのは、スタッフや学校職員の方々のご協力があったからだと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

アンケート(生徒の記述感想) ※一部抜粋

- ・体験型でわかりやすかった。
- ・いろいろな義足や義手があってびっくりした。いろいろな障害があってもスポーツをしている人がたくさんいることが改めてわかった。説明もわかりやすくて良かった。
- ・普段自分たちとあまり関わりのない「義肢装具士」という職業について学ぶことができた。職場体験にも、この体験を活かしていきたい。
- ・楽しかったです。また義足は難しいはずなのに義肢ユーザーの方がスムーズにいろいろな行動ができていてすごいと思いました。また人の役に立つ義肢装具士も将来の夢の候補に入れてもいいかなと思った。
- ・岸さんとテニス対決をして、義足でも普通の人とおなじように動くことができると感じる事ができた。

アンケート(生徒の記述感想:続き) ※一部抜粋

- ・義肢の名前や役割なども詳しく教えてもらい、義肢への理解がとても深まった。
- ・障害者の人を日頃見る中で可哀想などいろいろな感情が出る中で今回の岸さんの話を聞いて障害者の人に人に優しく接するのではなく普通に接すると相手も普通に接する事ができると学んだ。
- ・障害にはいろいろな種類があるけれど身体障害になってもあまり普通の人とは変わらない生活をおくれている。身体障害になってもプラスに考えて世界一にもなれていた。自分は障害を持っていないからこそ簡単に諦めないようにしたい。
- ・義肢装具士という職業を初めて知りました。実際に義足を使っている人がすごく楽しそうにテニスをしていて、義肢装具士さんを含め、いろいろな人が障がいがある人のために頑張っていると知れて良かったです。
- ・障がい者に対しては、決して特別扱いはいしなくても良いということがわかりました。パフォーマンスや体験も面白かったです。
- ・義肢装具について詳しく知れたし障害者の人にとしたらいいのかも聞けて良かったです。
- ・めったにできないことを体験できたし義肢装具士についてもよく知れてよかった。
- ・義肢装具士の仕事について多くのことを知ることができました。また、義足体験をすることができてとても良かったです。
- ・この体験授業ではほとんどが初めて知ること、とても新鮮な体験をすることはできました。今日の授業で障がい者のこと、心理、そして楽しいことなど知れたことで今後の生活や態度を変えることができると感じました。障がい者を特別に扱うのではなく、障がい者にとって一番良いことを知れたので良かったです。
- ・義肢装具のことは義足くらいしか知らなかったけど、今回の義肢装具士体験授業を通して、一つ一つ丁寧に作っていたり、障がい者に気を使いすぎずに普通に接することも大切、などいろいろなことを知ることができました。
- ・義肢装具にもいろいろな種類があることを知った。障がいについてのとらえ方や接し方は普通の人とは変わりなく接してほしいという人のほうが多いのだと知った。
- ・義肢装具を作るのはとても簡単なことだと思っていたけれど、型取りをしたり歩きやすくするための工夫などがたくさんされているとわかりました。私は身近に障がいがある人がいるので今回の公演でとても共感することが多かったです。また自分のわからないことなどを知れたので良かったです。
- ・講義を聞くだけでなく、体験ができたりパフォーマンスをしてくれたり、楽しみながらもしっかり学ぶことができたので良いと思った。大変なこともあると思ったけど、過剰に気にしすぎると障がいを持っている方もいい気持ちがないことがわかったので今日の話の内容を覚えてこれからの社会で生きていくことに活かしたいと思った。
- ・義肢装具士の採型が興味深かったです。また、実際に義足を付けることは、慣れるで難しく初めてでは大変なんだなということがわかりました。義足だからその日常生活での大変な点を知ることができたのでこれからも、頭の中に入れて生活をしていきたいと思いました。
- ・体験や講義を受けることができてとても楽しかったです。そして、障がい者さんとうまく関わって行けばいいのかを知ることができて良かったと思いました。また、障がいは障がいという言葉にまとめられているが本当はたくさんの種類の障がいがあり、それぞれの大変さがあると知ることができました。
- ・事前学習で学んだときよりも、間近で型作りや義肢・装具をみれてよかった。義足を付けていると不便なことがあるのかと思っていたけれど、障がいのない人とあまり差はなく、むしろ出来ることのほうが多いと知り、障がいがある人への見方が大きく変わったので良い機会となった。